

■令和2年度「葛飾町工場物語」漫画家募集設定ストーリー

父親が修行先で学んだ金属加工の技術を活かして、独立して40年。
自分が生まれる前から、金属加工をやっていることになる。

そんな、実家に生まれ、なんとなく、工業系の学校に進学していた。
卒業後は、機械を作る機械を製造販売する会社に就職し、10年ほど機械設計に携わる仕事をしていた。

実家の仕事は好景気も手伝い、忙しくしているが、父親も無理の利かない年齢になっていたため、実家を手伝う決意をした。

まず、実家に入社して取り掛かったのが、父親の勘や経験に左右されない、技術の一般化だった。
なにしろ、父親で持っている会社だから、父親に何かあった場合は、その勘や経験を継承できない。なので、工程を簡略化や数値化するために、自動加工旋盤の導入などを考え、父親に提案した。

父親は、汎用旋盤に固執し、自分の提案をいつまで経っても受け入れなかった。
とはいえ、仕事はいくつも舞い込み、相変わらず忙しかった。
自分も不本意ではあるが、汎用旋盤で加工をするしかなかった。

ある時、取引先が工場にやってきて、こんな話しをした。
「世の中いろいろ自動化されているけど、お宅にしかできない加工があつてね。1点ものとかね。
自動機ではできない加工をやってもらっているんだ」と。

そういった特殊な依頼は、いつも父親がひとりで加工を行っている。
汎用旋盤を駆使し、難しい顔で父親は黙々と作業をしていた。
いろいろな取引先から信用される、父親の高精度な加工には汎用旋盤が必要だったのだと理解した。
なんかカッコよかった。

いつか、自分も父親みたいに自分にしかできない加工をできるのか?と不安にかられているが、
まず、父親の背中に追いつかなきゃいけないと思っている。

※この作品はフィクションです。実在の人物や団体などとは一切関係ありません
※応募用設定ストーリーをもとに2ページのマンガを作成していただきますが、
ストーリー内容をすべて描く必要もありません。